

# 長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2024年第35週 2024年8月26日（月）～2024年9月1日（日） 2024年9月5日作成

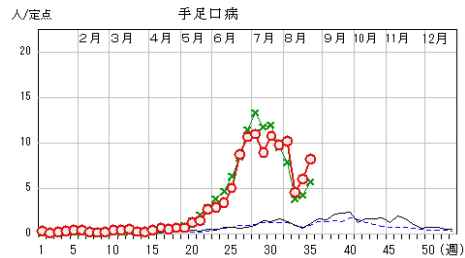
☆定点<sup>※</sup>報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

## （1）手足口病

第35週の報告数は362人で、前週より96人多く、定点当たりの報告数は8.23であった。

年齢別では、1歳（116人）、2歳（77人）、3歳（54人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（12.60）、西彼保健所（10.75）、県央保健所（9.86）であった。

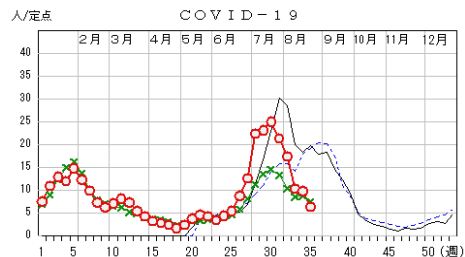


## （2）新型コロナウイルス感染症

第35週の報告数は447人で、前週より240人少なく、定点当たりの報告数は6.39であった。

年齢別では、70～79歳（60人）、80歳以上（59人）、60～69歳（50人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、対馬保健所（17.33）、上五島保健所（11.00）、県北保健所（8.75）であった。

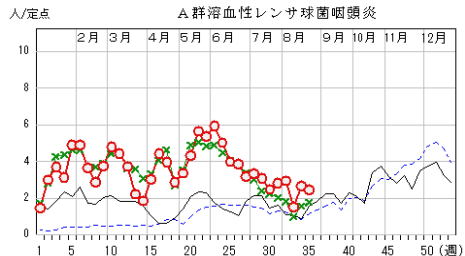


## （3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第35週の報告数は108人で、前週より9人少なく、定点当たりの報告数は2.45であった。

年齢別では、10～14歳（18人）、6歳（15人）、4歳（13人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（11.40）、対馬保健所（9.50）であった。



○ 当年(長崎県)      前年(長崎県)  
× 当年(全国)      前年(全国)

※インフルエンザ/COVID-19定点数：70、小児科定点数：44、眼科定点数：8、基幹定点数：12

## ☆上位3疾患の概要

### 【手足口病】

第35週の報告数は362人で、前週より96人多く、定点当たり報告数は8.23でした。2週続けて増加し、11週続けて警報レベルの報告数となっています。多くの地区で前週より増加し、五島地区、壱岐地区をのぞく地区で警報レベルが継続しています。

本疾患は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染、飛沫感染で水疱内容液からも感染します。手洗い、うがいを励行し、感染防止に努めましょう。原因ウイルスの種類によっては手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、早めに医療機関を受診しましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第35週の報告数は447人で、前週より240人少なく、定点当たり報告数は6.39でした。地区別にみると、対馬地区（17.33）、上五島地区（11.00）、県北地区（8.75）は他の地区より多くなっています。新学期が始まり集団生活も増えていますので、今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第35週の報告数は108人で、前週より9人少なく、定点当たりの報告数は2.45でした。地区別にみると県南地区（11.40）、対馬地区（9.50）は、警報レベルの報告数となっています。今後も予防に努めましょう。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

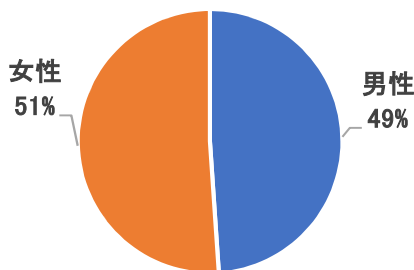
★トピックス：新型コロナウイルス感染症に注意しましょう

新型コロナウイルス感染症の長崎県における第35週の定点当たり報告数は「6.39」で、5週続けて減少しました。報告数は減少が続いていますが、新学期が始まり集団生活も増えていますので、今後も引き続き注意が必要です。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

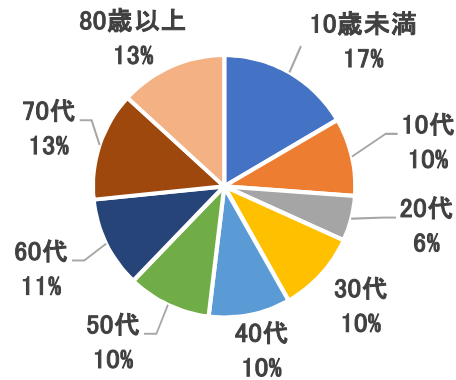
新型コロナウイルス感染症の保健所別報告数

	長崎県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
報告数	447	73	76	18	41	58	43	35	18	33	52
定点数	70	11	17	3	6	11	8	4	4	3	3
定点当たり報告数	6.39	6.64	4.47	6.00	6.83	5.27	5.38	8.75	4.50	11.00	17.33

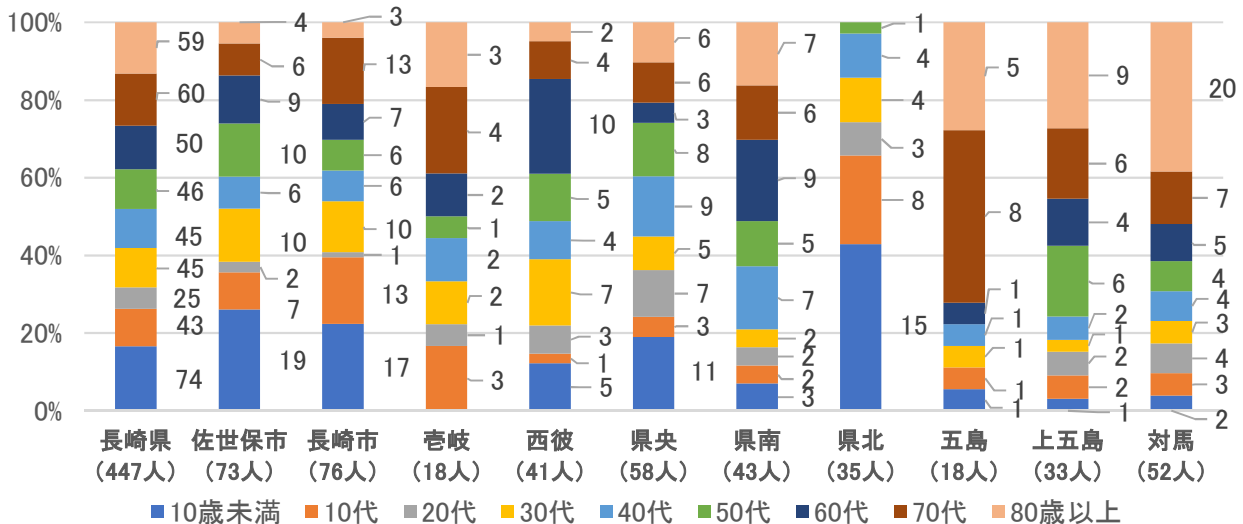
性別割合



年代別割合



保健所別年代別報告数



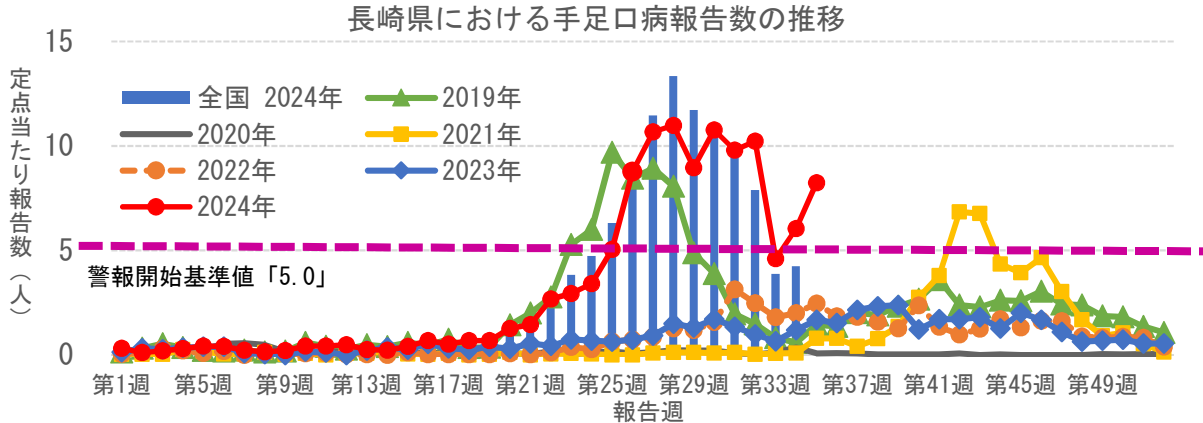
★トピックス：手足口病が流行しています

手足口病は、四肢および口腔内に水疱性の発疹を生じる疾患です。主として咳やくしゃみなどのしぶきを介した飛沫感染や、飛沫や便に含まれるウイルスが手指を介して口から侵入する接触感染により広がります。基本的には予後良好な疾患ですが、原因ウイルスによっては、中枢神経系合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を併発することがあります。

長崎県の第35週の定点当たり報告数は「8.23」で、警報レベルの報告数が11週間継続しています。地区別でも、五島、壱岐を除くすべての保健所で警報レベルの報告数となっています。

年齢別では、5歳以下で9割を占めています。

今後も手洗い、うがいを励行し、感染防止に努め体調管理に気をつけましょう。

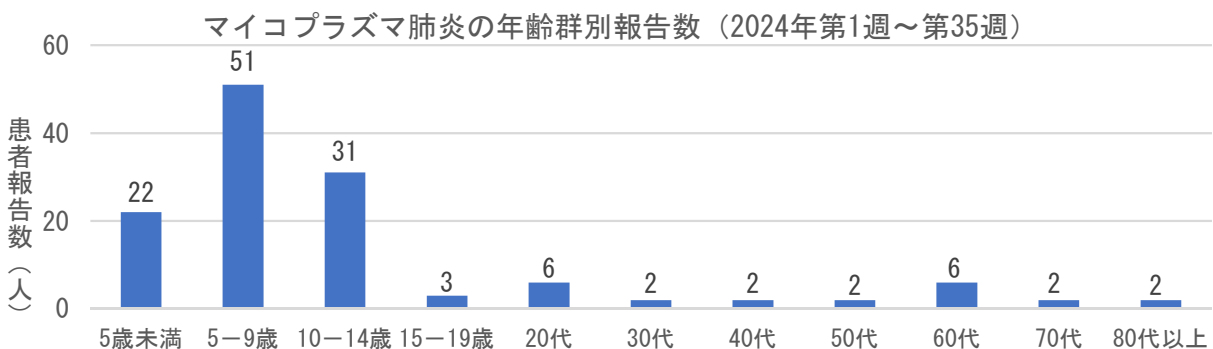
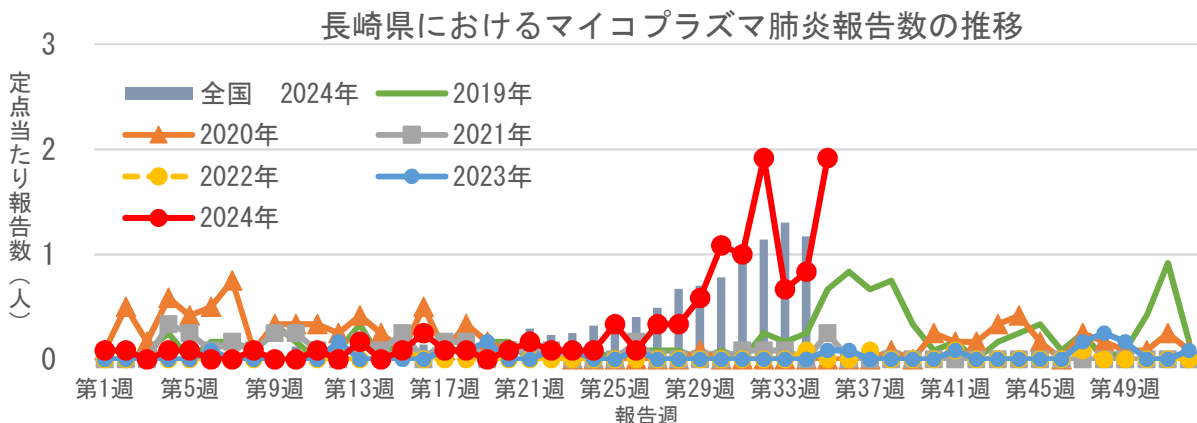


★トピックス：マイコプラズマ肺炎の報告数が増加しています

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマという細菌による感染症です。全年齢で1年を通して報告があります。感染経路は、患者の咳やくしゃみを介した飛まつ感染や病原体が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染があります。2～3週間の潜伏期間の後、発熱、全身倦怠感、頭痛、咳などが見られます。咳は、解熱後も3～4週間続くことがあります。まれに重症化することや、無菌性髄膜炎、脳炎などの合併症がみられることもあります。

2024年は、7月中旬から報告数が増加し、第32、35週は過去5年で最多の定点当たり報告数となっています。地区別では、長崎、佐世保、県央地区で多く報告が上がっています。年代別では10歳未満が最も多く、そのうち5～9歳で全体の4割を占めています。

予防には、手洗いやうがいを徹底することが大切です。咳が続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（70代・1名）  
無症状病原体保有者 女性（50代・1名）

3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 患者 男性（10代・1名） 女性（30代・1名）  
無症状病原体保有者 男性（10歳未満・1名）

4類感染症：日本紅斑熱 患者 女性（80代以上・1名）

5類感染症(全数把握対象)：カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 患者 男性（80代以上・1名）  
女性（80代以上・1名）  
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 患者 女性（60代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第30～35週、7/22～9/1)

疾患名	定点当たり患者数					
	30週	31週	32週	33週	34週	35週
	7/22～	7/29～	8/5～	8/12～	8/19～	8/26～
インフルエンザ	0.26	0.23	0.16	0.13	0.27	0.21
新型コロナウイルス感染症	24.94	21.34	17.42	10.29	9.81	6.39
RSウイルス感染症	4.93	5.36	3.33	1.25	0.91	0.73
咽頭結膜熱	0.39	0.50	0.51	0.30	0.34	0.14
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.48	2.80	2.95	1.52	2.66	2.45
感染性胃腸炎	0.95	0.98	1.56	0.57	0.98	1.25
水痘	0.18	0.11	0.02	0.09	0.07	0.07
手足口病	10.77	9.80	10.23	4.61	6.05	8.23
伝染性紅斑（リンゴ病）				0.02		
突発性発しん	0.20	0.23	0.21	0.23	0.30	0.30
ヘルパンギーナ	0.70	0.68	0.35	0.32	0.27	0.80
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.05		0.12	0.02	0.02	0.14
急性出血性結膜炎				0.13		
流行性角結膜炎	0.38	0.75		0.13	0.63	0.13
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎		0.08				
マイコプラズマ肺炎	1.08	1.00	1.92	0.67	0.83	1.92
クラミジア肺炎（オウム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第35週、8/26～9/1) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.21	0.09	0.06		0.17	1.00				0.33	
新型コロナウイルス感染症	6.39	6.64	4.47	6.00	6.83	5.27	5.38	8.75	4.50	11.00	17.33
RSウイルス感染症	0.73	0.17	0.30	1.50	2.75	0.43	1.20	0.33	1.33		
咽頭結膜熱	0.14		0.40	0.50		0.14					
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.45	1.00	1.00	0.50	0.75	1.29	11.40	0.33	0.33	0.50	9.50
感染性胃腸炎	1.25	3.00	1.20		1.75	1.00	1.00	2.00			
水痘	0.07		0.20			0.14					
手足口病	8.23	8.50	9.10	0.50	10.75	9.86	12.60	6.00	2.33	4.50	5.00
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.30	0.50	0.20		0.75	0.14	0.60			0.50	
ヘルパンギーナ	0.80		1.30		1.00	1.86		1.33	0.33		
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.14	0.33	0.10			0.43					
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	0.13						1.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	1.92	2.00	5.00		3.00	3.00					
クラミジア肺炎（オウム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											